

平成30年度萩市立萩西中学校 学校評価書 校長名(柳林 洋二)

1 学校教育目標
教育目標……自主的で実践力のある心豊かなたくましい生徒の育成 中・長期目標……挨拶が飛び交う学校、清潔で美しい学校、歌声が響く学校、安心・安全な学校、開かれた学校

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
○授業改善の取組を成果につなげるため、学力向上推進リーダーの指導助言のもと個々の実践を検証することが大切である。 ○家庭学習の充実をめざした取組とともに、基礎基本の理解が不十分な生徒に対する個別の支援が不可欠である。 ○スクールカウンセラーとの連携により、課題や悩みを抱えた生徒や保護者に組織的に迅速に対応する体制を強化する必要がある。 ○教育活動全体を通して夢や志をもたせる取組が必要であり、そのためには、生徒の主体性をより発揮させる活動を意図的に仕組むことが重要である。 ○コミュニティ・スクールや地域協育ネットをいかし、萩西中の実態に即した学校支援と地域貢献につなげる。 ○組織的な業務削減や業務の効率化を進め、教職員との相互理解のもとで負担軽減に取り組むことが急務である。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
<input type="checkbox"/> 学ぶ楽しさを体感させ、確かな学力の定着を図る。(学習指導・キャリア教育) <input type="checkbox"/> 一人ひとりの存在感がある心が通い合う集団をつくる。(心の教育・生徒指導・特別支援教育) <input type="checkbox"/> 命を大切に、心身共に健康で安全な生活を送るための意識と能力を育てる。(体育・健康・安全教育)

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	学習指導の工夫・検証・改善と、基礎基本の定着を確実にする施策の推進	○学力向上プラン・授業評価・やまぐち学習支援プログラムを生かした授業改善と、学力向上推進リーダーと連携した校内研修の活性化 ○授業と連動した家庭学習等による自主学習の定着支援及び個別支援の具現化	○授業が「わかる」「できる」と感じる生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○家庭学習時間か昨年度より増加した生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.1 (3.1)	○研修部と、学力推進リーダーとの連携により校内研修が活性化し、研究授業や互見授業の前後でミニ研修会を実施するなど多様な取組で授業改善を推進している。ユニット型研修を実施し、多様で客観的な意見を蓄積していくことが肝要である。 ○全国学調や山口県確認問題を活用し、分析結果をもとに各教科、担当で学力向上に向けて取り組んでいるが、折に触れ、学習方法についての指導も行っていくことが必要だと考える。	○先生方の努力の成果が見られる。学習についていけない生徒にも積極的に工夫をした指導を求める。 ○いろいろな取組の結果として生徒たちの学習態度や学力定着状況に表れている。今後も一人ひとりに合ったきめ細かい指導が必要だと考える。	A
生徒指導・教育相談・特別支援	自己指導力を高める生徒指導の推進及び生徒一人ひとりを大切にした教育相談・特別支援教育の推進	○自他の尊重に基づく自律活動の徹底(身だしなみ・学習規律・黙想・無言清掃) ○教育相談の機能強化の取組の工夫及び多面的な生徒理解のための情報共有の徹底	○挨拶やきまりの遵守など自主的にしている生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○困った時や悩み事がある時に支援(学習支援・悩み相談等)体制が整っていると感じている生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.2 (3.3)	○それぞれの評価は高い。教職員の共通理解による共通実践が生徒に反映しているとともに、生徒会活動を中心とした自治意識の相互効果であると考え。 ○生徒の主体性を引き出すために無言清掃の継続的な指導と生徒会を中心とした自律活動の充実が必要であり、その実効性を高めていきたい。 ○年3回の定期教育相談(担任・担任他)、週末アンケート、萩西ノートのコメント等、生徒の悩みや変化に対応する取組を継続しており、多面的な生徒理解に努めている。スクールカウンセラー等外部機関と積極的に連携を進め、特別支援教育の充実と配慮の必要な生徒へのきめ細かい指導に努めていきたい。	○あいさつに対する意識の高さに感心する。 ○生徒自身の自発的な行動を通じて自律した学校生活が行われている。保護者も早い時期より三者面談などを通じて将来のことを本人とともに考えるようになってきているので、今後ともきめ細かい相談にのってあげることが必要である。 ○それぞれの活動の「ねらい」を生徒が自分のこととしてとらえ、将来に向けてどのように取り組んでいきたいか、考えさせてほしい。	A
心・命・健康・安全	道徳の授業及び特別活動や総合的な学習の時間等での体験活動の充実による心豊かな生徒の育成	○「志・郷土愛」をはぐむ道徳授業や体験活動の充実および「命・健康・安全」を重視した心の教育の充実 ○生徒の主体的な参画を促進する学校行事・部活動の運営	○生徒の「志」や目標をはぐむ道徳授業や諸活動を工夫して実践した教職員の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加し満足感を得ている生徒の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.1 (3.3)	○道徳の授業や体験活動に対する生徒の評価は高い。道徳の授業を通していろいろな考え方や価値観、あるべき姿を学んでいるが、日常生活の中で行動として表れていないことが多いようで、客観的に生徒の様子を見ている大人の評価が低いと考えられる。学んだことや感じたことを日常生活の中で実践していくように生徒に投げかけることが必要である。 ○生徒が学校行事や部活動に主体的に取り組めるよう、生徒に寄り添いながら保護者と教職員が協力して生徒を支援していくことが大切であると思われる。	○生徒のあいさつの励行は素晴らしい。人権を尊重し、人の心の豊かさを育むことに通じると思う。 ○学校、地域を好きになるよう努力してもらいたい。身のまわりのものに興味をもって心の底から学校、地域よさを言える生徒になってもらいたい。 ○地域住民はもとより観光客からも中学生からあいさつをされ、素晴らしい町だとの意見がある。	B
地域連携・CS	コミュニティ・スクール推進のための家庭・地域との連携強化と双方の教育活動の充実	○コミュニティ・スクールや地域協育ネットを活用した地域と連携した教育活動の企画・実践 ○双方向の情報発信の取組の工夫・改善	○学校支援ボランティアなど外部人材・施設を活用した教育実践に取り組んだ教職員の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満 ○各種通信・HPで学校の様子がよくわかったと感じる保護者の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	2.9 (3.0)	○小・中合同の学校運営協議会や地域協育ネットにおける具体的な実践をさらに進めていくことが課題である。 ○1年総合的な学習の時間での博物館訪問学習、家庭科の調理実習、学校保健安全委員会等では地域の人材や施設の活用を工夫を凝らしながら継続している。コーディネーターと連携し、より幅広く外部人材の活用を検討していきたい。 ○学年・学級通信や学校だより等の情報発信に対して保護者の評価は高い。引き続き、HPや学校メールを効果的に活用し、タイムリーな情報発信に努めたい。	○生徒たちが地域に出かけると地域の方も来校しやすくなる。お互い顔を合わせ、あいさつする機会が増えると、連携も取りやすくなる。学校、コーディネーター、地域の連携が動きやすいようにする工夫が必要である。 ○CSとしての認知度は確実に上がってきている。地域連携について無理に考えるより、いつでも必要な時に協力できる信頼関係を構築しておけばよい。	B
業務改善	学校の組織等	○各主任を中心とし機能する部会・委員会等校内組織の運営	○報告連絡相談が徹底した運営が行われていると感じる教職員の割合 4:80%以上 3:65%以上 2:50%以上 1:50%未満	3.1 (3.1)	○分掌部会や学年部会等が適切に実施されており、共通理解のもと組織運営がなされている。 ○各分掌・担当において「報告・連絡・相談・確認」による情報共有・行動連携に努めたが、学年行事等で特に外部と関わる行事についての情報共有が不十分があった。	○業務改善をしておられるのに仕事量は変わっていない。負担が重くなっている教員がおられるということ。今後益々生徒が減少すれば教員数も減らされてしまうことになるであろうが、先生方にはゆとりをもって、仕事をしたい。したい。	B
	機能する校内組織づくり						
	日常的な業務						
	業務の効率化	○メリハリある業務遂行の意識化と支援体制充実による負担軽減	○退庁時間の早期化(昨年度比) 4:平均15分以上 3:15分未満 2:昨年と同程度 1:遅延	2.5 (2.4)	○優先して取り組むべき業務の精選と効率化を図っているが、業務が削減できたという実感を多くの教員がもてずにいる。 ○昨年度と比べ、教職員の時間外業務時間は10%程度削減できた。しかしながら、一部教員は1ヶ月の平均時間外業務が80時間を超えており、引き続き業務改善の工夫に取り組むことが急務である。	○組織の内での連携はとれていると思いますが、進んで休暇の取れる環境づくりを個人の努力目標のごとく行ってほしい。 ○いろいろな取組をされているが、なかなか改善されない現実があり解決策が見つかっていない。学校運営協議会でも話し合ったように、教員の数を確保して負担を減らしていくのも一つの方法だと思う。 ○ノー残業デーを設定すること、ICTを活用することで負担の軽減を図るとよい。	
勤務状況							
勤務状況の改善	○年休・振休の積極的な取得と気兼ねなく取得できる環境づくり	○積極的な年休取得(年間10日以上) 4:10日以上8割 3:6割程度 2:3割程度 1:3割未満	2.4 (2.3)	○学年主任等の温かい声かけや教務主任による日課組み替えによって、年休や振休が取得しやすい雰囲気やしくみができている。 ○長期休業中の研修や出張、部活動により年休が十分に取得できないという現状は昨年度と変わらない。部活動の在り方について検討が必要である。			

6 学校評価総括(取組の成果と課題)
○学校全体での授業改善が進んでいること、基本的内容を丁寧に指導することを通して、着実に学力が伸びてきている。 ○定期的教育相談や日常の生徒との関わりを通して、一人ひとりの生徒に目を向けることができている。特別支援教育のさらなる充実が必要である。 ○学校行事、部活動において、生徒の主体的な活動が保障され、保護者、地域から高く評価されている。地域、学校に誇りをもつ生徒の育成に力を入れるとよい。 ○地域と生徒をつなぐ取組が進められている。生徒による地域貢献の場を設けていくことを通じて、学校への信頼感を高める努力が必要である。 ○業務改善に向けて工夫しつつも、教職員の負担感軽減されていない実情がある。保護者や地域等の理解や協力も得ながら更なる業務削減・効率化を図る必要がある。

7 次年度への改善策
○生徒の学力状況を的確に分析し、課題を明確化したうえで全ての教科で課題の解決に取り組んでいく。 ○不登校生徒への対応等、関係機関とのより密接な連携や多様な活用を工夫するとともに、生徒一人ひとりが安心した学校生活を送れるよう教育相談体制を整える。 ○学校行事や部活動等において、生徒の主体的な活動を支援し、生徒一人ひとりの自己肯定感を高めていく。道徳や総合的な学習の時間を工夫し「志・郷土愛」を育む。 ○生徒が地域で活動する場を設け、地域貢献に取り組めるよう支援し、学校と地域の距離を縮めることで、地域の学校運営への参画を進めていく。 ○全教職員で知恵を出し合い、効率的な学校運営の実現を目指し、保護者、地域の理解や協力を得ながら業務改善を進めていく。